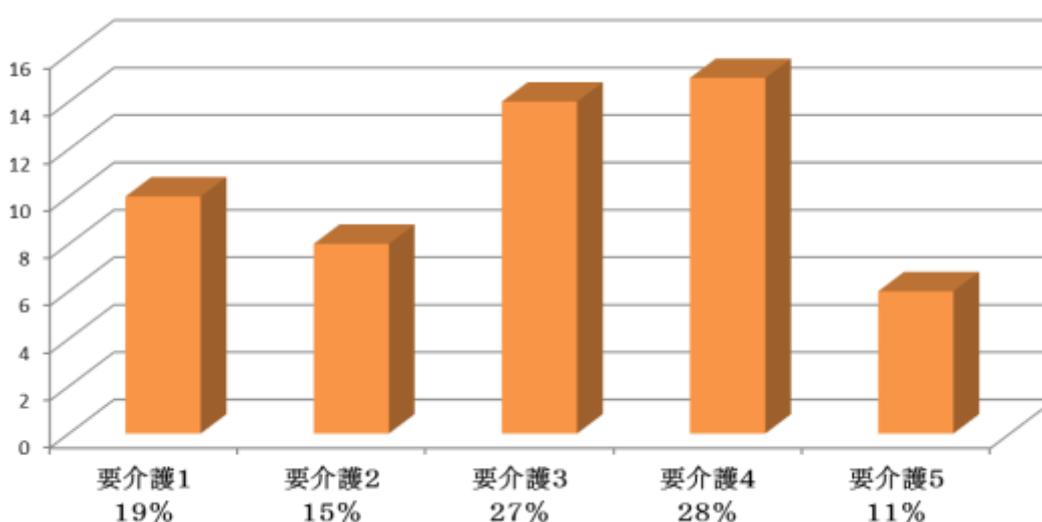


2 4時間対応の定期巡回・随時対応サービスモデル事業 最終報告

1 利用者に関する事項

(1) 要介護度等の変化

要介護1 19%	要介護2 15%	要介護3 27%	要介護4 28%	要介護5 11%	合計
10	8	14	15	6	53名



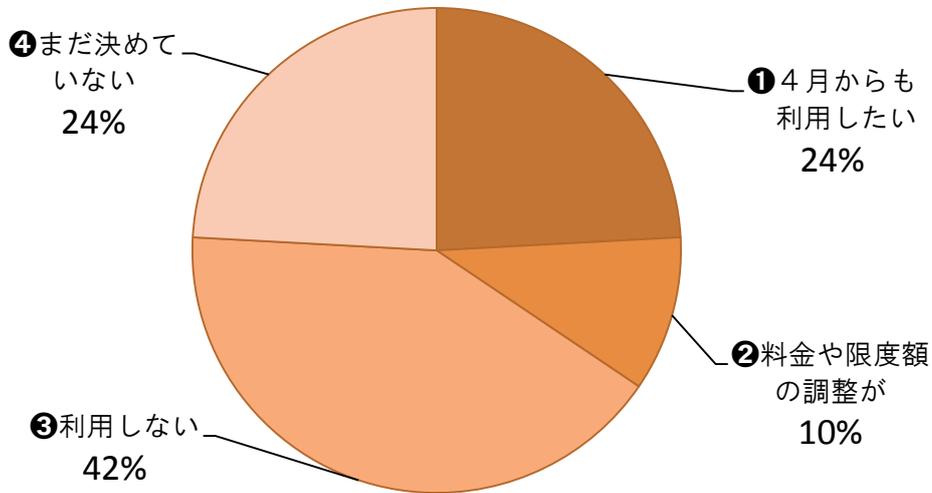
- ・モデル事業の中で要介護度が下がる、上がるといった方はおられなかったが、訪問している中で現状のサービスに加え、モデル事業の利用により、在宅での生活が継続できるようになった（施設入所を考えていた）方がおられた。また、要介護1や2の方についてもモデル事業の利用ニーズはあり、限度額の範囲が現状より大きければ定期巡回・随時対応型訪問介護看護への移行がスムーズだったと思われた方もおられた。

(2) 介護保険サービスの利用に関する意向

- ・訪問サービスのみならず家族の介護負担の軽減の為、デイサービスや短期入所等も併用していきたい。
- ・もっと限度額の範囲が広がれば、色々なサービスを利用し、在宅生活を継続できる。
- ・今は家族だけが介護するのではなく、サービス事業者にお願いできるのでとても助かる。

(3) 本事業におけるサービス利用の継続の希望

《モデル事業終了後について》



※上記を選んだ理由

① 4月からも利用したい

- ・ テレビ電話を使っていきたい。呼ぶことは少ないけれど、安心の為に利用していきたい。
- ・ 何回来てもらっても、同じ金額だから良い。
- ・ 退院後や、まめに訪問して欲しい利用者にとって、状態に合わせて訪問回数を変えてくれるので助かる。
- ・ 良いことばかり。ボタン押すだけで話ができ来てくれる。
- ・ 一人での生活に不安があるから、職員がすぐ来てくれるので頼りになる。

② 料金や限度額の調整が

- ・ モデル事業の期間、1,000 円で安かったけれど、今後の料金次第で利用するかどうか決めたい。

③ 利用しない

- ・ 24 時間の事業は良いと思うが、今後 1,000 円では利用できないようなので、金銭的な問題で利用しない。
- ・ 随時で呼ぶようなことがなかった。
- ・ 部屋を見られるのは、気を使う。(散らかっている為)
- ・ 訪問サービスも良いけれど、できれば特養へ入所したい。

④ まだ決めていない

- ・ 金銭的な問題もあり家族と話し合う。ケアマネジャーと話し合う。

(4) 費用負担等に関する意向

① (モデル事業の期間だった為) 1,000 円は安かった。

② 制度改正後の料金が気になる。

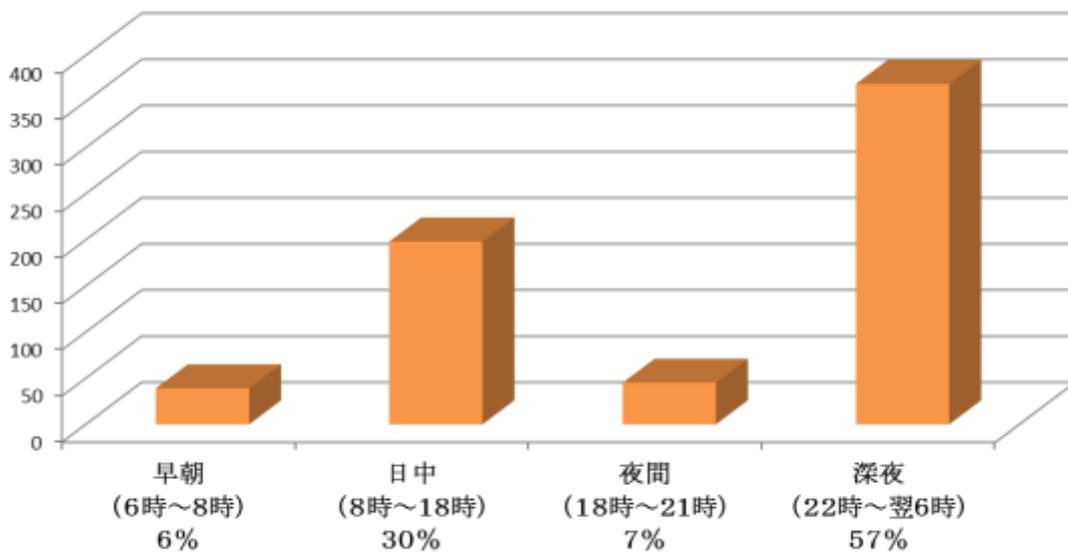
今後は月 5,000 円ぐらい、1 回〇円なら気軽に使える。

設定金額はあまり高くしないで欲しい。随時対応のみの利用でも料金が同じでは利用できない。

2 随時の対応サービス事業に関する事項

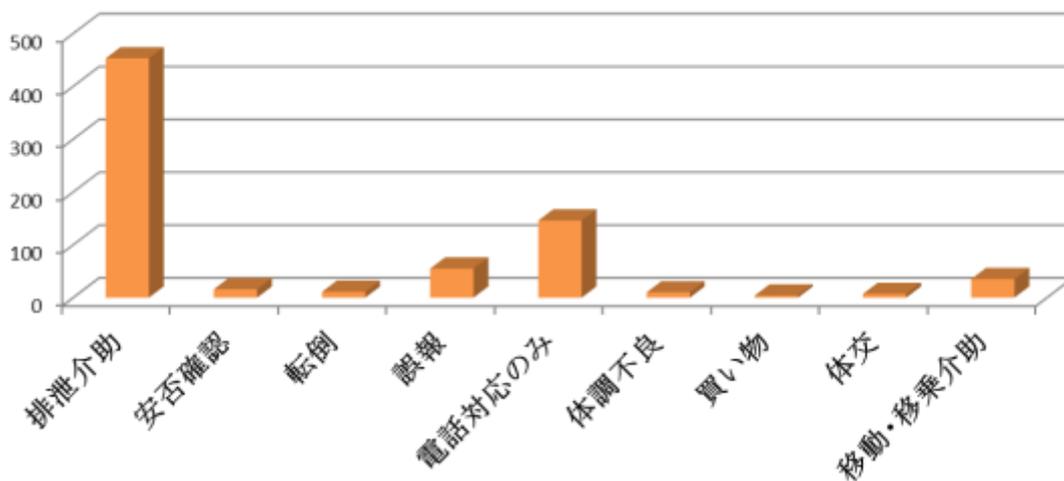
(1) 連絡のあった回数及び時間帯等

早朝 (6時～8時) 6%	日中 (8時～18時) 30%	夜間 (18時～21時) 7%	深夜 (22時～翌6時) 57%	合計
39	198	45	369	651



(2) 連絡に対して講じた処置

排泄 介助	安否 確認	転倒	誤報	電話 対応 のみ	体調 不良	買い物	体交	移動・ 移乗 介助	合計
453	16	11	55	146	10	4	7	35	737



3 事業全体に関する事項

(1) 事業にかかった経費（人件費、管理費等）

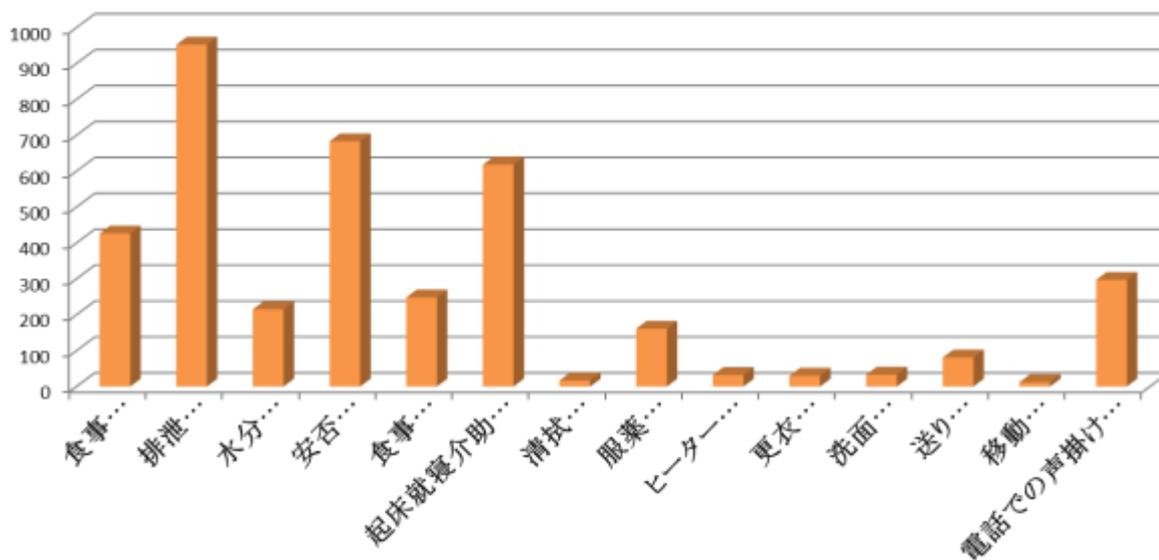
《別添資料①》

(2) 事業に従事した職員の資格・経験年数・人員数

《別添資料②》

(3) 訪問の回数、介護内容及び時間帯

食事介助	排泄介助	水分補給	安否確認	食事準備	起床就寝介助	清拭	服薬確認	ヒーター電気つけ	更衣介助	洗面介助	送り出し	移動移乗介助	電話での声掛け	合計
11%	25%	6%	18%	7%	16%	0%	4%	1%	1%	1%	2%	0%	8%	3805
426	952	215	683	248	618	17	161	32	30	33	81	12	297	



時間	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	合計
件数	53	5	78	91	9	53	245	287	309	259	84	270	182	111	215	261	134	231	279	211	216	129	9	110	3831
主な内容	排泄介助・安否確認		排泄介助・安否確認			起床介助(※)		→	→	安否確認・送り出し・排泄介助		食事セッティングなど		安否確認・水分補給		→	食事介助・就寝介助(※)		→	→	排泄介助		→	安否確認	

(4) 事業運営のための体制（人員配置、シフト等）

24時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業実施要綱に基づき職員を配置し、講師招聘による研修会、先進地事例の研究等により事業の円滑な運営に努めた。

(5) その他事業の実施に当たり特に留意した事項及び得られた効果等

- ・夜間帯の訪問は女性職員一人では不安があったが、オペレーターと2人体制で訪問することで夜間の不安は無かった。今後も継続していくためには人員の確保が必要である。
- ・テレビ電話は高齢者にはなじみにくい手段と思われたが、名乗らずとも用件だけで訪問に来てくれる気軽さで、介護者や本人から好評だった。また、50～70代の比較的若い世代の利用者・介護者からは“(テレビ電話のサービスを)待ち望んでいた”と声が聞かれた。

4 検証委員会（平成24年4月23日実施）での主な意見、質疑応答

- 当初、モデル事業利用者は独居や高齢者世帯を想定していたが、日中家族が働いており一人である高齢者の依頼が多かった。
- 家族同居の方の深夜帯の訪問状況について。
→毎晩随時訪問で2～3回利用していた方は隣で家族が寝ていたが、訪問に気づかなかった。家族同居の方はほとんど深夜帯のコールはなかった。
- 4月から開始した新サービスの利用状況について。
→継続の利用者は8名、新規利用は2名。
新サービスの利用にあたり、従前から利用していたサービスの利用の変化について。
→福祉用具の見直しをした方がおられた。大幅なサービス変更が必要な利用者は継続していない。訪問看護事業所の連携が取れなかった場合もあった。
- 随時対応が重なった場合の対応について。
→夜間、20分程度待ってもらったことはあったが、到着が遅い等の申し出はなかった。
- 勤務体制について。
→対応できない範囲ではなかったが、随時対応の実施に苦慮することもあった。夜間の職員体制について検討が必要。
- 想定されているサービス付き高齢者向け住宅への働きかけについて。
→対応する考えはある。
- すぐ施設入所に結びつけず、ケアマネジャーが発想転換できるようなアピールをすべき。

《別添資料①》

対象経費の決算

(単位：円)

対象経費区分	補助額	支出額	残額	摘要
需用費	20,000	20,000	0	
委託料	21,075,000	21,074,550	450	
委託料内訳（事業者）				
収入の部				
		事業委託費	21,074,550	
		利用者負担額	185,000	@1,000
		計	21,259,550	
支出の部				
		給料	5,189,700	職員俸給
		職員手当等	3,619,739	
		賃金	5,441,891	非常勤職員給与
		共済費	2,135,761	法定福利費
		共済費	57,396	退職共済
		報償費	367,220	講師謝礼
		旅費	179,620	旅費交通費
			62,000	研修費
		需用費	970,115	福利厚生費
			878,594	消耗品費
			58,550	食糧費
			530,250	印刷製本
			60,063	光熱費
			17,520	会議費
			91,000	保健衛生費
			140,783	車輜・燃料費
			52,615	雑費
		役務費	86,549	通信費
			10,095	手数料
		使用料	58,872	コピーカウンター
			12,200	会場使用料・駐車料
		備品購入費	1,239,072	器具什器
				棚、キャビネ、医療器具
				プロジェクター
		計	21,259,605	
差引残額			△ 55	

《別添資料②》

	氏名	資格	経験年数
1		介護支援専門員・介護福祉士	8年
2		介護福祉士	6年
3		介護福祉士	7年
4		介護福祉士	4年7ヵ月
5		介護支援専門員・介護福祉士	10年
6		介護福祉士	12年
7		訪問介護員2級	0年
8		訪問介護員2級	4年
9		訪問介護員2級	3年8ヵ月
10		訪問介護員2級	6ヵ月
11		訪問介護員2級	7年
12		介護福祉士	9年
13		介護福祉士	12年
14		訪問介護員2級	0年
15		介護職員基礎研修	0年
16		介護職員基礎研修	4ヵ月
17		介護職員基礎研修	0年
18		介護職員基礎研修	0年
19		訪問介護員2級	0年
20		訪問介護員2級	4年3ヵ月
21		介護職員基礎研修	0年